

11月4日(月)付奈良新聞

奈良大  
2年生ら

## 商店街で防災調査

## 災害を自分事に



パネルを用いて防災対応などの調査結果を報告する学生  
11月3日、奈良市山陵町の奈良大

奈良大学社会学部総合社会学科の2年生が3日、県内商店街や同大での防災に関するアンケート調査などの結果を基にした防災パネル展示・発表を、奈良市山陵町の同大で行った。

## 意識、備え不十分

## 避難誘導に懸念

調査と発表は、多様な社会体験を通して実社会を知る同学科の「社会体験実習」の一環。防災意識のアンケートは6月下旬～7月上旬、同学科の倉光敏教授(経営学)の指導を受ける6人の学生が、外国人観光客の利用が多く、これまでの実習で関係の深い奈

市の奈良もちいとのセンター街の40店舗を対象に行った。併せて、自分たちが通う大学の防災体制についても大規模に文書で質問し、回答を得た。

発表会場には11枚の関連パネルが掲示された。展示ではアンケート結果から、調査店舗の防災への意識、備えが必ずしも十分でないことや、多くの店舗が観光客や訪日外国人の災害時の誘導方法の情報を求めていることを紹介。発表では同大が設定している避難場所や、災害発生時の対応なども報告した。

また、地震発生時に身を守り、災害の拡大を防ぐ方法や公的情報の生かし方、備蓄用品に関する調べた内容を説明。学生ら来場者に、災害がいつでも身近で起こり得ることとして意識を高めておくこと、避難方法や備蓄といった事前の備えの重要性などを呼びかけた。